

80年半ばくらいまで、日本基督教団の多くの教会では、小さな子どもから高齢者まで幅広い年齢層がいて、活況を呈していました。その頃は、おそらく大半の教会では、週半ば、たいてい水曜日の午前と夜、聖書研究・祈祷会にはある程度の参加者が集っていたようです。そしてこの祈祷会と礼拝が教会を支える二本柱であると当時の牧師さんたちがおっしゃっていたのを思い出します。

それは根拠のない精神論ではなく流れをさかのぼると16世紀の宗教改革まで、行き着くのです。学校の歴史の授業でも教わった記憶がありますが、教会や修道院が腐敗しきった時代、一 象徴的なことのひとつは、免罪符のようにお金でお札を買えば、罪が赦されるといふなんとも言いがたいインチキなのです。そんなことは聖書のどこにも書かれていないということをルターをはじめ改革者たちは声を上げて、立ち上げられたプロテスタント教会では、ことさらに聖書を大切にします。

ところが聖書をもとに何かを主張するという伝統は、さらに突き詰めていくとユダヤ教にまでさかのぼるのです。その場合の聖書とは、わたしたちが「旧約聖書」と呼んでいる聖書です。例えば「永遠」という単語 eternity と talmit という語（膨大な聖書の註解書タルムード）で調べるユダヤ教のラビが論ずる講義がヒットします。ヘブライ語を交えてタルムードについて論じるために、難しいですが、分らずともかまなく言葉を尻へして延々と一時間以上も「永遠」について講義が続くのです。「永遠」以

外の言葉を説明するためにいったいどれだけの言葉が必要なのか、何千…数えられないほどの言葉を用いるのです。そこで5章39節の意味するところがより豊かに想像できると思えます。

しかしそのようなユダヤ教の聖書解釈に対して、まったく新しい理解を唱えているところが5・39以下によって分かります。つまり旧約聖書が、イエスが自身についての証言であるということです。

39 あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。40 それなのに、あなたたちは、命を得るためにわたしのところへ来ようとしな。 … しかし、モーセの書いたことを信じないのであれば、どうしてわたしが語ることを信じることができようか。」

今日の聖書箇所を読みますと、どうもイエスは当時の正規の教育を受けていなかったようです。それにもかかわらず「神殿の境内で教えるほど」聖書をよく知っているのだらう」とユダヤの指導者たちは驚きます。

14 祭りも既に半ばになったころ、イエスは神殿の境内に上って行って、教え始められた。15 ユダヤ人たちが驚いて、「この人は、学問をしたわけでもないのに、どうして聖書をこんなによく知っているのだらう」と言つた。

「わたしの教えは、自分の教えではなく、わたしをお遣

わしになった方の教えである。」とイエスは答えました。続けて「17この方の御心を行おうとする者は、わたしの教えが神から出たものか、わたしが勝手に話しているのか、分かるはずである。(17)」とおっしゃるのです。神の意志を實踐しようとするならば、神の意志が分かるはずであるというのです。その神の意志とは、モーセが与えた律法であるが、あなた方は、だれもそれを實踐しようとしなではないかと、問われたのです。

もしもイエスが会堂で律法を先生について学ぶことがなかったならば、彼がいかにして律法を学んだのかがここに答えとして記されているといえます。つまりイエスは、律法を實踐することにより先生がなくとも学んだのです。

16 イエスは答えて言われた。「わたしの教えは、自分の教えではなく、わたしをお遣わしになった方の教えである。17 この方の御心を行おうとする者は、わたしの教えが神から出たものか、わたしが勝手に話しているのか、分かるはずである。18 自分勝手に話す者は、自分の栄光を求め。しかし、自分をお遣わしになった方の栄光を求める者は真実な人であり、その人には不義がない。19 モーセはあなたたちに律法を与えたではないか。ところが、あなたたちはだれもその律法を守らない。なぜ、わたしを殺そうとするのか。」

モーセの律法とは、先生について学ぶことができなくとも、ただ実践することによって学ぶことが出来るものなのか、という問いが持ち上がってきます。聖書をひもといて創世記から、律法について読み進んでいくと、神はイスラ

エルを愛する故に律法を与えたということがあきらまかになります。神はイスラエルを選んで奴隷の身から救い出したうえで、モーセを介して十戒を与えました。その十戒とは、

- 出20・2 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。3 あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。4 あなたはいかなる像も造つてはならない。5 上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造つてはならない。6 あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、6 わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。7 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおられない。…

助けた相手を愛しているけれども、どうも完全に信頼するには、不審な言動が目立つので、神はイスラエルに約束を与えられました。十戒(出20章)の意を(Chabad.orgのラビの講義を踏まえて)現代のわたしたちが身近に感じるといひにまで砕いてみますと―あまりに砕きすぎかもしれません―

わたしは不自由と束縛、抑圧のなかで奴隷だったあなたがたを助けたのだから、わたしをおいて他に愛するひごがあるといふことはいやね(他の神々に浮気をするはず

がないよね)、他の神の写真を胸に隠してわたしの目を盗んでは、それに類ずりしたり、フィギアをつくったり、ましてやその神々のところに会いに行ったりしないよね。その神からお願ひつて言われたからといって、頼みを聞いたりしないよね。いいか、わたしは嫉妬深いからね、気をつけるんだよ。わたしを愛してこの約束を守るなら、わたしはあなたを慈しむ。そして互いに尊敬し合う関係を大切にしよう。ぶっきらぼうにどうでもいような呼び方をしないよう。…それから…休日は大切にしよう、いろんな仕事にかまけてわたしをないがしろにしないでくれ…

律法は互いに愛の関係を育むための約束だから、それをどんなに研究し学んでも、守らなければ無意味であり、実践したひとこそがその約束をとおして神との信頼関係を築くことができる。イエスは、おっしゃるのです。

イエスは、病の故にベテスタの池に38年間たずないたひとを安息日に癒やしたことでユダヤの指導者たちから殺意を買いました。そのことで、反論します。あなた方は、安息日であろうとも、神との関わりをしるしとして割礼を行うのではないか、それは大切なことかもしれない、だから安息日に38年も病に苦しむひとを助けるのはどうなのか? 律法の精神は神を愛すると同時に隣人を愛することではないか、と問われるのです。

20 群衆が答えた。「あなたは悪霊に取りつかれてい
る。だれがあなたを殺そうといふのか。」21 イエス
は答えて言われた。「わたしが一つの業を行ったとい
うので、あなたたちは皆驚いている。22 しかし、
モーセはあなたたちに割礼を命じた。―もともと、

これはモーセからではなく、族長たちから始まったのだが―だから、あなたたちは安息日にも割礼を施している。23 モーセの律法を破らないようにと、人は安息日であっても割礼を受けるのに、わたしが安息日に全身をいやしたからといって腹を立てるのか。24 うわべだけで裁くのをやめ、正しい裁きをしなさい。」

「シンドラーのリスト」という映画を思い出します。ドイツの降伏により収容所が解放され、シンドラーの工場も閉鎖します。戦争の間、もとは安い労働力として利益を上げるために雇いはじめたユダヤ人に請われて、最終的には1千098人もユダヤ人をかくまうように雇用し、生き延びた彼らが解放される光景があまりにも印象的です。シンドラーは自動車を売ればあと10人、胸に挿していた金のピンを外してこれを売ればあと二人救うことができたのに泣き崩れます。ユダヤ人の会計士で秘書役だったイツハク(イサク)・シュテルンにタルムードの言葉「ひとりを救う者は全世界を救うのだ」との言葉が刻まれた金の詰め物を溶かして作り替えた指輪を渡されます。シンドラーは決して善良なひとではありませんでしたが、金儲けをしよと渡った先アルゼンチンで事業に失敗し、貧しい老後を通りました。その間8千500人も助けたユダヤ人たちの子孫たちと再開するなどその業績はたたえられ、エルサレムのカトリック教会の墓地に埋葬されました。

イエスはこのタルムードの言葉をひっくり返して神の意志を人々に知らしめたのではないかとわたしには思います。彼は自らのひとりの人間としての命を失うことによつて世を救う、神の意志を実践したのではないのでしょうか?・